



特定非営利活動法人

自然文化誌研究会 会報誌

149 号

2023 年 3 月 10 日発行号

第 19 回通常総会を開催しました！！

昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。総会の報告についてはホームページに掲載しますので閲覧が可能です。

<2023 年主催事業の予定>

日付	事業名	開催場所	定員	備考
5/3-5	冒険学校むらまつりキャンプ	小菅村	20	
8/4-10	こすげ冒険学校	小菅村	20	参加対象：小学 4 年～中学 3 年
12 月下旬	まふゆのキャンプ	小菅村	15	12/23-25or12/26-28 で調整中
4/23 (日)	野草のてんぷらとお茶つみの会	東京学芸大学環境教育研究センター（農園）	50	※最終ページに案内あります。 参加申し込み制になります。
8 月中	タイ環境学習キャンプ	タイ	15	
9/30-10/1	INCH まつり（ライブ）	小菅村	30	

冒険学校『むらまつりキャンプ』 5.3～5.5 (2 泊 3 日) 開催します！！

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村でキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、野外調理、五右衛門風呂など、多くのプログラムを準備しております。

ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ～！！



日程：5 月 3～5 日 (2 泊 3 日)

場所：小菅村 清水バンガロー（いつものキャンプ場）

対象：子どもだけの場合は小学校 3 年生以上、

親子参加の方は幼児も OK です。

宿泊：テント＋寝袋が基本になります。

参加費：※奥多摩駅～小菅村間の交通費を含みます。

子ども：会員 ¥27,000 非会員 29,000 円

親子一組：会員 ¥34,000 非会員 40,000 円

※先着順で 20 人の定員です、お早めどうぞ！！

※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。

※会員になると、今回から会員料金で参加できます。

※参加希望者は、ハガキ・もしくは E-mail に住

所・氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号

を記入の上、4 月 23 日（日）までに事務局までお申

し込みください。

＜令和 4 年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業です＞

（※5/4 の「多摩源流まつり」は開催されないようです）

第 18 期サークルちえのわ活動報告

第 18 期代表 小平温太

みなさま、お久しぶりです。「東京学芸大学 サークルちえのわ」です。私たちは大学構内の教材植物園（農園）で、地域の子どもたちと食農文化体験活動をしています。また、INCHが開催しているキャンプにもスタッフとして参加しています。コロナ禍での空白を経て、やっと今年度は子どもたちを大学に招いた活動ができました。今回は、当サークルが開催している「ちえのわ農学校」の紹介と、来年度 4 月から始まる「第 19 期ちえのわ農学校」の案内をさせていただきたいと思います。

【ちえのわ農学校とは】

「サークルちえのわ」は東京学芸大学のサークルであり、メンバーの大学生は教育・自然体験・農体験に興味を持って集まりました。「ちえのわ農学校でしか出来ない体験をしてほしい!」という想いから、「ちえのわ農学校」を地域の子どもたちに向けて開催しています。

そんなサークルちえのわは、3つの“わ”を理念として4月から翌年1月まで毎月1回(全10回)の活動を行っています。

＊自然のわ：自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを五感で感じるきっかけづくりをする。

＊人のわ：農学校だからこそ出来る体験を通じて、子どもたちが仲間やスタッフとのつながりを感じられるきっかけづくりをする。

＊知恵のわ：昔から受け継がれてきた知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおし発見するきっかけづくりをする。

【今年度の活動報告】

日程	4/16	5/21	6/18	7/16	8/20	9/10	10/15	11/12	12/10	1/21
活動内容	開校式、 農園散策 夏野菜種 まき	畝づくり あぜぬり	田植え お茶づくり	かかし作り	これまでの振 り返り 冬野菜会議 田んぼクイズ スイカ割り	冬野菜の 種まき	焼き芋 稲刈り はざかけ	脱穀 粃摺り 精米 どんぐ り工作	わら工作 イルミネー ション	書初め 米粉づくり 修了式
夏野菜の栽培						冬野菜の栽培				
田植えから脱穀・精米までの稲作体験 自然を対象にしたあそびなど										

今年度はご飯と一緒に食べることを制限されていたため、例年あるような昼食づくりはできず、活動時間も短縮せざるをえませんでした。それでも、農学校のスタイルである畑と田んぼ活動は基調としながら、季節を感じる企画を多く取り入れることができました。また、子どもたちにやってみたい企画や作ってみたい野菜のアンケートを取るなどして、それぞれの自主性を尊重した活動を進めました。



本代掻き(5月)



野菜の種まき(9月)

畑では一年を通じて野菜を栽培しました。夏にはエンドウ豆、さつまいも、きゅうり、すいか、かぼちゃを育て、冬には大根、ニンジン、小松菜、カブ、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ミニごぼうを育てました。夏ころにはウリハムシの被害が大きく、失敗してしまった苗もちらほら…

田んぼでは、うるち米ともち米を作り、稲を刈り、干し、教科書に出てきたような器械を使って脱穀・精米をしました。子どもたちから、おうちに帰って調理してもらった感想を耳にすることもあり、自分たちの手で作った食べ物を頂くことのありがたみを感じました。

【第18期の活動を振り返って】

今年度は、コロナ禍のなか感染対策と折り合いを付けながら、どうすればちえのわらしい農学校が開催できるかを模索し続けた一年となりました。前例踏襲では打開できない状況のなか、新しいことへの挑戦にたじろぐこともありましたが、その分これまでにない農学校を作り上げることが出来ました。

野菜やお米を苗から育てることの難しさ、泥の生温かな感触、芝生に寝転がったときの高揚感…これらはちえのわに関わらなければ体験できないものばかりです。教科書では決して学ぶことのできない、けれどもきっと人生を豊かにするエッセンスをたくさん享受することができた一年でした。

末筆になりますが、ちえのわは学生だけではなく、子どもたち(ちえっこ)やその親御さん、農園および大学の職員、INCH など様々な方々に支えられています。ちえのわに関係するすべての皆さまに感謝申し上げます。学生一人ひとりが「楽しい」と感じることができ、ひいては子どもたちのワクワクにつながるようなちえのわであり続けられるよう、今後とも励んでいきます。ありがとうございました！



たけのこ掘り(4月)

来年度の予定は次ページのようになっています。最新情報は「サークルちえのわ」HPにて発信しておりますので、QRコードを読み込んでご確認ください。そのほか、主に農学校の様子を発信しているちえのわのブログ、Twitter、Instagram アカウントもありますので、ぜひ覗いてみてください！



「サークルちえのわ」HP



ちえのわのブログ(アメブロ)



@GAKUGEI_CHIENOWA

ちえのわ Instagram



ちえのわ Twitter

【第 19 期 ちえのわ農学校について（募集要項）】

□活動要旨

正式名称：ちえのわ農学校

対 象：小学校 3 年生～中学校 3 年生までの男女 10 名（応募者数が定員に達した場合は抽選を行います）

スタッフ：東京学芸大学学生を中心に 20 名程度

場 所：東京学芸大学 環境教育研究センターおよび教材植物園(彩色園)

費 用：実費負担年額 15,000 円（食費、保険、材料費等）

主 催：東京学芸大学サークルちえのわ URL: <http://www.gakugei-chienowa.org/>

共 催：NPO 法人自然文化誌研究会 URL: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

後 援：小金井市教育委員会

□2023 年度 年間予定

月 1 回の土曜日（全 10 回） 13:00～17:00+本代掻き（4 月または 5 月を予定）

※日程・内容ともに変更する可能性があります。

日 程	4/15	5/13	6/17	7/15	8/19	9/16	10 月 (日付未定)	11/18	12/16	1/20
活 動 内 容	開校式、 農園散策	田植え	かかし 作り				稲刈り	脱穀、 粃すり、 精米	わら工作	修了式、 お正月遊び
1 年を通しての活動（畑作業）：夏野菜・冬野菜の栽培										
1 年を通しての活動（田んぼ作業）：田植えから脱穀・精米までの稲作体験										

●10 月は 1 泊 2 日の合宿を行う予定なので、年度初めに参加者と相談のうえ、日にちを決めたいと考えています。

●活動内容で未定な部分もありますが、子どもたちのやりたいことを聞きながら決めていきたいと考えています。昨年度は育てた野菜の調理、季節を感じる遊びや工作などを行いました。

●お申し込み方法（ちえのわ農学校のホームページから Google Form でのお申し込みも可能です）

①参加者氏名（ふりがな） ②保護者氏名（ふりがな）と続柄 ③学年（2023 年度） ④性別 ⑤住所

⑥電話番号（自宅・携帯電話）⑦メールアドレス ⑧アレルギー ⑨ちえのわ農学校でやってみたいこと

⑩どこでちえのわ農学校を知りましたか？

⑪今後ちえのわの活動（農学校・その他企画）についてのお知らせを送ってもよろしいですか？

⑫ちえのわ農学校の活動で撮ったお子様の写真を、サークルの HP や紹介資料に掲載してもよろしいですか？

⑬その他備考 以上の内容項目を明記のうえ、メールにてお申し込みください。

メールアドレス：chienowa.nougakkou@gmail.com

申し込み締め切り：2023 年 3 月 15 日（水）（厳守です）

□個人情報の管理について

お申し込みの際に教えていただいた個人情報は、ちえのわの活動以外で使用することはありません。

（健康管理・安全管理の情報については省略しています）



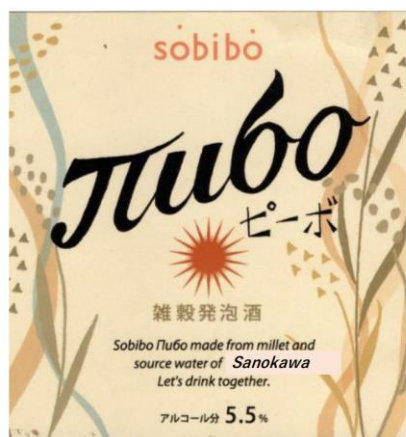
2023 年の国際雑穀年 (International Year of Millets) を記念したイベントとして、1/21 (土)・2/18 (土)・3/18 (土) の「国際雑穀年記念・つぶつぶ雑穀パワフェス」(Zoom 開催) を共同開催しました。2/8 (水) には相模原市長と面会し、「雑穀街道」を FAO 世界農業遺産への登録申請するための協力についてお願いしました。今後も上野原市長との面会など「雑穀街道」周辺の自治体に賛同していただけるように人と活動を繋げて行きたいと思っています。引き続き、ご助力頂けますようお願い致します。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/ms22n3v.pdf>

＜ご案内1＞

国際雑穀年を記念し、雑穀街道を「国際連合食糧農業機関 (FAO) 世界農業遺産」に登録する活動を普及促進を図るために、雑穀発泡酒 ソビボ・ピーボ (素美暮発泡酒) の復刻を計画し、第一弾として限定 50 口での醸造を目指しています。宮本茶園にてキビおよびホップを栽培し、藤野の Jazz Brewing Fujino (山口さん) で醸造します。山口さんの醸造所は、2018 年神奈川県相模原市にある陣馬山の麓にオープンした超小規模醸造所で、日本の里山百選にも選ばれた旧藤野町佐野川の名水を使用し、非加熱・無濾過製法。使用している酵母は仕込み毎に使い切りの純粋培養された活性度の高い酵母でこだわりの醸造を行っています。新しい雑穀街道の名産になれば、地域の新しい生業創出にも繋がります。ぜひ、ご賛同いただき、仮予約いただければと思います。価格は 1 口 (330 ml 瓶 6 本入り) で 5,500 円 (送料込)、宜しければ任意の寄付を加えて頂ければ嬉しいです。

※1 バッチ (330ml 瓶 300 本) の製造価格が約 20 万円、これらにラベルデザイン・印刷代、送料などの経費に使用します。



雑穀街道を世界農業遺産に登録しよう

麦芽使用率 x x % 以上
Z z 産麦芽 70 %
その他の材料: 相模原市緑区産
日本の里100選佐野川の水 100 %
キビ 30 %、ホップ
内容量 330 ml



国際雑穀年記念2023
雑穀街道普及会

【仮予約方法】

企画へのご質問や仮予約申込先は雑穀街道普及会、事務幹事 木俣に下記メールでお願いします。

kibi20kijin@yahoo.co.jp

仮予約が限定 50 口になりましたら、改めてご連絡し、代金などをお振込みいただきます。

企画団体: 植物と人々の博物館 / 日本村塾自給農耕ゼミ (佐野川)、雑穀街道普及会ほか

＜ご案内2＞

環境学習市民連合大学 第 6 回自給農耕ゼミ (小金井) ※昨年 7 月に延期していたものを実施します。

日時: 2023 年 4 月 15 日 (土) 13:30~16:00

集合・解散場所: JR 東小金井駅北口

場所: 小金井市関野町、梶野町の玉川上水周辺 (定員: 15 名) 資料代 300 円

話題: 「明日につなぐ風景〜東小金井・梶野町の民有地が彩る HANANA と緑」(屋敷林、都市農地の巡検)

案内者: 小谷 俊哉さん (小金井市環境市民会議、グリーン・ネックレス)

要旨: 市民参加や民有地所有者が携わってきた東小金井・梶野町周辺の緑を巡検します。1964 年に全国初の請願駅として開業した東小金井駅の周辺は、2000 年に始まった JR 中央線の高架化事業を皮切りにその姿を大きく変えてきました。一方、江戸時代に玉川上水から分水を引くことで開拓が進んだ東小金井駅北側一帯の梶野町は今でも屋敷林や農地が点在し、東小金井駅から北の小金井公園の間をみどり水路でつないでくれています。この梶野町で、長年たくさんの花で彩られた農地とアパートを営み、多様な樹木から成る屋敷林の中で住まれていた瀧島義之さんが昨年 1 月に亡くなりました。花と緑を愛し、2004 年の陳情に始まり屋敷林を残すことに精力を傾けた故人の足跡を辿りながら、新旧の東小金井駅北口周辺を巡り、「明日につなぐ風景」に向けて私達ができることは何か、参加者のみなさまと一緒に考えます。

協催: カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会 / 植物と人々の博物館 / 雑穀街道普及会

申込み連絡先: 042-316-1511 (カエルハウス運営委員会) または office@katayamakaoru.net

『藤農便り』 第 31 号

宮本茶園

2013 年 4 月 1 日付神奈川県教育委員会「失職について（通知）」を受け取り、農業高校教諭の仕事をして 10 年が経ちます。55 歳でのリストラは老後の人生設計を激変させましたが、どうにか年金受給年齢にまでたどり着きました。昨秋の救急搬送以来息子が時々連絡をくれるようになり、私の誕生日には祝の宴を設けてくれました。千葉県に住む娘は男子を出産、孫が 2 人になりました。独居老人が集うアミーゴ月曜サロンの仲間からは「宮本さんは親孝行の子どもたちがいて、幸せな老後じゃない。別れた奥さんに感謝しなさい」とからかわれています。

確定申告の季節になりました。28 歳で社会に出てから植物を育てる仕事をずっと続けていますが、新規就農して 6 回の確定申告は毎回赤字で農業経営者としての才覚は備わっていないようです。木俣師と藤野を巡る軽トラ車中で雑談していた折「ミヤモッチちゃんも年金生活者の楽しみで野良仕事をするか、農業経営者として野良仕事をするかそろそろ決めないといけませんね」という課題をいただきました。2016 年 12 月相模原市農業委員会へ提出した就農計画に記載した茶栽培は佐野川茶の相模原ブランド構築、雑穀栽培は雑穀街道の世界農業遺産登録申請と取り組むべき目標ができました。2020 年から始めた相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の花卉栽培は、日本が犯したアジア侵略戦争被害者への謝罪と新たな中国侵略戦争絶対反対の気持ちを込めた私の意思表示です。父方は早死家系で私の健康寿命がどれだけ残っているか不明ですが、体が動かなくなるまで野良仕事を続けます。

・冬の茶仕事

静岡県では秋から冬にかけて茶園周辺にある「茶草場（ちやくさば）」の草を刈り、茶園畝間に敷き込む茶草場農法で銘茶が生産されています。前号の産学連携紹介で触れましたが、世界農業遺産に登録されている茶草場農法は里山の豊かな生物多様性を守っています。神奈川県の足柄茶生産農家も取り入れており、宮本茶園では夏秋に収穫した麦・雑穀ワラや大豆殻を茶園畝間に敷き込んだ後は萱場に入りススキを刈り取って茶園に運んでいます。

産学連携視察後、津久井せんべい本舗より「さがみはら SDGs パートナーに登録しませんか」と助言いただきました。市役所みんなの SDGs 推進課に連絡、茶草場農法で農薬を極力使わない茶栽培や耕作放棄茶園再生に取り組む藤野茶業部が「さがみはら SDGs パートナー制度」に登録できるのか相談し、申請手続きを取りました。

宮本透

コロナ禍の影響で 2021 年から中止されていた第 55 回 神奈川県茶業振興大会が、2 月 7 日松田町生涯学習センターで開催されました。品評会・茶園共進会の審査報告・入賞者褒賞授与後の研修会は映画上映とパネルディスカッションでした。映画は県立小田原高校放送部が映画甲子園 2022 で地域産業お越しの会賞を獲得した「見えた、お茶が潤す未来」、足柄茶を知らなかった高校生が農家や茶業センターを訪ねながら茶栽培の歴史や農家が抱える厳しい状況を学んでいく珠玉のドキュメンタリー作品です。茶農家の細谷さんから生徒に出された宿題「喉が渇けば水を飲め心が乾けばお茶を飲め」という細谷家の家訓をどう考えるか、皆さんも解答に取り組んでください。パネルディスカッションは 3 人の足柄茶生産農家をパネラーにして「100 周年を迎える足柄茶のこれから」が討論されました。「2030 年には 100 軒になった足柄茶農家が 1 戸当たり 7 反の茶園を管理するようになるのでは」という話題には驚きました。私は藤野茶業部大洞茶園を含めると 7 反の茶園を耕作していますが、手一杯です！

松田町の隣は開成町で、大会終了後に快晴茶の My Tea 茶園を茶業部員一同で視察しました。昔勤務した吉田島高校が近くにあって、生徒たちと足柄茶の基礎を学んだ事を懐かしく思い出しながら帰路につきました。



・ちーむゴエモンの活動（2023 年味噌仕込み・醤油仕込み・醤油搾り）

年末恒例のちーむゴエモン餅つきは各チームが一堂に会える楽しいイベントで、佐野川チームは上岩雑穀畑産の雑

穀餅を皆さんに食べていただきながら雑穀街道 PR をしています。当日は 2023 年の味噌仕込み・醤油仕込み・醤油搾り日程調整が話し合わせ、ゴエモン味噌仕込み 1 月 24 日、佐野川チームの醤油仕込み 1 月 26 日～29 日・醤油搾り 30 日と決まりました。昨秋ヤギ苑には新製麹室が完成して新旧製麹室を使い味噌・醤油麹を同時に仕込む事が可能となり、高橋師の醤油麹仕込みに並行して私は旧製麹室で味噌麹仕込みを行いました。

ゴエモン味噌仕込みは平日開催にもかかわらず参加者の多い人気イベントで、今年は 15kg の古代米を 3 回に分けて製麹しました。玄米麹仕込みも 4 回目で時間配分ができるようになり、手入れ仕事の合間にあぐりんすへ佐野川茶を納品し、薪運びバイトや佐野川チーム醤油の小麦焙煎等、効率よく自分の仕事をこなしました。

1 月 24 日浸漬大豆を蒸煮しながら昨年仕込んだ味噌の樽出しをしました。樽詰めした味噌の表面にさらし布を敷き、その上に少し残した味噌を均等にのばして膜を作り樽の中の味噌が直接空気に触れないようにして、味噌膜には食塩を振りかけカビを防ぐ製法は無駄がありません。昔新聞家庭欄で紹介された味噌仕込み記事の受け売りですが、参加者の皆さんからは好評で今年もこの製法で樽に仕込み熟成させます。

佐野川チーム醤油麹仕込みは新しい製麹室で行いました。上岩雑穀畑の津久井在来大豆は発芽時に野生動物の被害を受け、醤油原料を確保するため秩父在来借金なし大豆を作付けしたのです。昨年 10 月は長雨続きで大豆に病気や害虫が発生し農薬を使わない畑はどこも不作で、宮本茶園の収量は 7kg の醤油原料を確保すると植付け用種子がわずかに残るだけでした。ともあれ自前原料で仕込んだ佐野川チーム醤油麹は 2 人の師匠に指導いただき、良質の醪になっています。

醤油搾りは佐野川チームメンバーが揃って行いました。当日は内戦の続くシリアで取材活動をしている小松由佳さんの取材報告会が並行して開催され、30 人を超える参加者が醤油搾りを見学されました。ランチには搾りたての生醤油を使っていただき、ゴエモン活動の紹介を兼ねた楽しいイベントでした。



・雑穀街道普及会の活動

ワノサト・エコビレッジ・プロジェクト主催で 2023 年国連・国際雑穀年記念オンラインイベント「つづつ雑穀パワーフェス」が開催され、私も雑穀街道普及会栽培担当幹事として企画・運営に携わっています。リアルでは木俣師と色々な方を訪ね、雑穀街道の世界農業遺産登録の取り組みをお伝えしています。Jazz Brewing Fujino には中止となった学大創基 150 年記念発泡酒プロジェクトを継承し、新商品として雑穀ビールの開発・販売をお願いしました。藤野・あわ・きび・ひえの会、相模胡里山暮らしの会ちーむゴエモンには雑穀街道普及会賛同団体になっていただきました。2 月 8 日は本村相模原市長に面会いただき、雑穀街道協議会準備会づくりを相模原市が中心になって取り組むようにお願いしました。

昨年自給農耕ゼミ(佐野川)に参加された皆様のお手元に木俣師が精白したモロコシは届いたでしょうか？上岩雑穀畑は雑穀街道普及会活動拠点とすべく、年間を通して様々な作物を栽培しています。第 11 回ゼミの後、冒険探検部後輩の瀬谷君が送ってくれたパン用硬質小麦コムアサヒを播種しました。寒風吹く中「おじいちゃんの小麦粉でパン作りたい!」という孫娘の言葉に励まされ、震えながら麦踏みをしています。私は学生時代「種から胃袋まで」の農耕文化基本複合を学び、教員時代は栽培・収穫・加工・調理を教材にした授業をしていました。農耕文化基本複合を学びたい人は本年も自給農耕ゼミ(佐野川)にご参加ください。国際雑穀年記念発泡酒企画やゴエモン佐野川チーム醤油仕込み等オプションもたくさんありますので、足しげく佐野川へお越し願います。



※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。

3度目のアイラ島へ（その1）佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning

DAY1 15th AUG NGO→AUH

DAY2 16th AUG AUH→MAN
MAN→GLA

Stay HolidayInnExpress GLA

DAY3 17th AUG GLA→ILY

正月の台湾・高雄旅行を終えると、既に心は夏休みの旅行に向かっていた。4回目となるUK。アイラ島へは3回目のウィスキー研究の旅である。早速、Skyscannerを始め、多くのサイトで日々航空券をチェックし、6月には、航空券を確保した。さらに、アイラ島のホテルへメールして部屋を確保するなど（もちろん英語で）、着々と準備を進めていった。それほど英語が上達しているわけではないが、必要に迫られると、いくらか慣れてくるというものだ。

Etihad Airways EY-889

15/AUG 21:30 中部国際 (NGO)

16/AUG 06:15 アブダビ国際 (AUH)

Etihad Airways EY-21 | Airbus A330-200

乗り継ぎ1回 (AUH) 4h 30m

16/AUG 10:45 アブダビ国際 (AUH)

16/AUG 15:30 マンチェスター国際 (MAN)

乗り継ぎ1回 (MAN) 4h 45m

Etihad Airways EY-6072 | Saab 2000

16/AUG 20:15 マンチェスター国際 (MAN)

16/AUG 21:20 グラスゴー国際 (GLA)

復路合わせて¥145,280

BE6921 Loganair

17/AUG 08:30 Glasgow Intl.

17/AUG 09:15 Ilay.

復路合わせてGBP 113.35

今回はすこし違う経路でUKに行こうと思い、中部国際→北京→アブダビ→マンチェスター→グラスゴー→アイラという経路で向かった。いろいろな空港での乗継は全く苦ではないし、目的地だけではなく移動自体も楽しんでいるので今回のようなチケットになった。

マンチェスターか、マンチェスターユナイテッドがあるところだな、とかアブダビってどこだっけと調べると、アラブ首長国連邦UAEという7つの首長国が集まった連邦制国家だということ。その中にあるアブダビ首長国の首都は連邦首都も兼ねているとのこと。なるほどと、少しだけ賢くなった気がしたが、マンチェスターには1泊するものの、アブダビの街には出ることもない。いつか街の散策もしてみたいと思うが、優先順位はそれほど高くない。アブダビの順番が来るまで自分が生きていられるか自信はない。

そんなことを思いつつ、旅の準備をしながら、ついでに仕事もしているとそれほど待つこともなく夏休みになった。

DAY1 (15AUG2017) 移動/名古屋→北京

1200 昼食 いつものリストにしたがってパッキング。長袖シャツ、ゴムそうりは持たず。

名鉄新可児駅まで送ってもらう。

1514 発中部国際空港行 中部国際空港 1700 着

既に並びべきカウンターには長蛇の列。中国人が多い。北京経由なので当然。カウンターが開くのは1830のはずだったが、10分前倒して開いた。こういう融通の利かせ方はよい。乗継2回なのでチケットはボーディングパスは3枚。これでグラスゴーまで行けるはず。

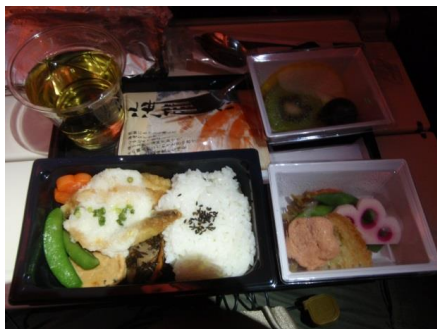


1838 両替。JPY20137→GBP130 154.9¥/£
これでセキュリティチェック通って、イミグレ通って、飛行機に乗るだけなので、一気にお気楽極楽である。で、プレミアムラウンジでビールを飲み、出発前の至福の時間を過ごす。



1930 先ほどの多数の中国人により、セキュリティチェックとイミグレーションが混雑すると予想し、早めに移動するが、あっさりと通過できてしまう。ま、予想以上に時間がかかるのは困るが予想外に早く通過できるのは問題ない。出発1時間前までスタバで待つ。こういう時に、「空港に居ますよ、これから旅行ですよ、いいでしょ、素敵でしょ。」とFBに投稿しがちだが、それはかなりむかつくという記事を何かで読んだことがある。しかも、そういうことをするのは基本的におっさんであるとも。読んだ人々は「はいはい、それがどうした。うらやましいってほしいのか。痛い奴だなお前。」ぐらいは思うだろう。実は、過去にはよくやっていた。しかし、その記事を読んでからは極力避けるようにしている。そりゃ、軽くむかつくよね。でも、ついやってしまうかも。気をつけよう。そんなことを思いなが

ら、待っているとそろそろ出発 1 時間前だ。2040 ほぼ定刻に搭乗開始。2135 機体起動開始。2150 take-off.



夜 9 時ですから、そりゃお腹もすきます。基本、安定飛行に移ったらすぐ機内食が配られるので特に問題なし。普通にいただいて、酒も飲んだら、映画を観ながらぼんやりしていると約 3 時間で北京着。2430 北京時間変更 2330。

機内で待つ。多くの人が降りて行った。こんなに北京で降りるんだ。と思ったら当然のことながら、また同じくらい乗ってきた。日本時間では 0 時過ぎなので、当然眠い。知らない内に寝てしまっていた。

DAY2 (16AUG2017) 移動／

北京→アブダビ→マンチェスター→グラスゴー

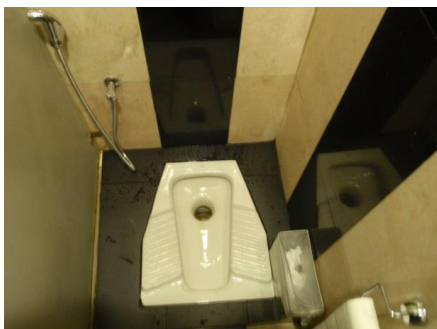
時間の感覚が消えているところに、朝食配給。ありがたください。

アブダビ時間に変更

0530 (日本時間では 1030) アブダビ着。

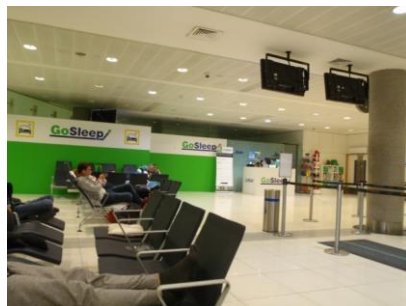


乗り継ぎのセキュリティーチェックを受ける。なんと、リングノートの金属部分が反応してしまう。大して問題にはならなかったがやや恥ずかしかった。さて、乗継は 4 時間ほど。長いようでそれほど長いわけではない。まず周囲探索。



トイレ (ホースシャワーのウォシュレット?)。そして、この個室は入ってきたドアに向かって座る方式。

パキスタンとかと同じ方式だ。トイレはその国によって特徴があるので大変興味深い。食う寝る飲む出すは生物の基本なのでそれぞれの地域でそれぞれの生き方をしていることがよくわかる。ここは手洗い場も清潔でよかった。その後、洗顔、歯磨きをしてすっきり。



「GO SLEEP」という 1 時間 13USD で寝ることのできる施設があったが、すぐそばにベンチもたくさんあり、そこで寝ている人もいた。空いていたので、そこで旅の記録を書く。



今では日本でもコーヒーが販売されている COSTA でターキーベーコンサンド、カプチーノ、水を摂取。45AED (アブダビ通貨) → 1356JPY。結構なお値段である。スタバでもそんなもんか。カプチーノのココアが空港らしくて大変よい。やはり神は細部に宿るのだ。

近くの両替屋の情報を見ると、セントレアでは 130GBP を得るのに 20137JPY を使ったが、ここでは 18518JPY で済む。余計なものを見てしまった。急に損した気分になってしまった。知らなければこんな思いをすることもなかったはずだ。結局人間は事実ではなく、認識で生きているので、幸せだと思っていれば客観的にどれだけ不幸でも全く問題ないのである。途中、スマホと iPod の充電を済ませ、搭乗ゲートに向かう。30 分立たない内に搭乗開始。



アブダビの朝日はかなり強めでまぶしい。(つづく)

「黄昏の太宰府」便り（第4回・最終回）

—地方都市が生き残るための条件とは③—

長濱和代（大学教員）

【地方都市での大学教員職が任期満了となる】

太宰府市内の私立大学に着任して、3年目を迎える。この2月に上司との面談があり、3月で任期満了にて職務の継続はなし、「残念ながら、総合的判断として引き続きお願いするとの結論に至りませんでした。」とのこと。唐突な話しに2週間くらい、なぜだろうか？と自問自答している。

前回のコラムで大学において「学生は大切なお客さま」と書いたように、学生がいなければ、私立大学の経営は成立しえない。私は長崎県の公立高校 10 校余りと私立高校 1 校を担当しており、それらの担当校から毎年 3～4 名の高校生たちに入学いただいている。ただ去年は 2 回しか訪問しておらず、入学予定者はまだ 2 名の学生に留まっている。入試担当の先生によれば、年に少なくとも 4 回は高校を訪問すると良いとのことであったので、その点で私は貢献度が低く、高校生を獲得するための営業成績が低かったのかもしれない。

しかし大学は本来、高等教育機関として研究と教育を推進していくことを目的としているのではないだろうか、と私は考えている。その貢献を果たすべく、私はセンター長（管理職）となり、学内の研究を牽引してきた。去年は 3 冊の本を出版、昨年度の科研費（基盤 C）の採択に続き、今年度は研究公開促進費（学術図書）を獲得して、博士研究をまとめ、本を出版した。その他にも共著で 2 冊を刊行、英語論文や学内の大学紀要も主著者として執筆した。また学内では実務家教員が半数以上を占めることから、研究論文を執筆できる教員を増やそうと、EBSCO から講師を招聘して英語と日本語文献の検索のための英語と日本語による講習会を開催したり、自分が講師となって科研費採択のための勉強会を実施したり、さらに新しい教職員が年度途中に入れば、人的ネットワーク構築のための懇親会を開いて、それぞれの部門で良いチームが組織できるように心を配ってきた。その懇親会では、ウクライナから受け入れた留学生たちも交えて、時には 20 名近くの教員・学生たちが参加し、「長濱会」とも呼ばれるようになったことから、経営陣はその草の根的な活動を良く思っていなかった可能性もある。

新年度における学生入学者数は、2 月において定員充足数の 8 割に達しており、現状の経営全般は悪くはないように見える。本学の経営はトップダウンの構造になっており民主主義的にボトムアップを起こそうとしてきた私の行動は、指揮系統を乱す行為に相当することから、「総合的判断として引き続きお願いするとの結論に至りませんでした。」ということになったのではないかと考察している。

【管理職のミッション】

組織をまとめ、動けるチームづくりを目指し、少しでも働きやすい（楽しい）職場に変えていくことは管理職のミッションであるが、そこにはトップとの良い人間関係が必要であるということが、今回の件で分かった。長濱は目立ち過ぎて、トップとのせめぎ合いがあったのではないかと、という声も聞かれる。次の職場では、おとなしく、自分のミッションを果たし、少しでも地域や社会に研究を役立てる努力に励みたい。

【まず自分たちが生き残り続けよう】

黄昏れていく地域が消滅せず、生き残り続けるためには、まずそこにいる自分たちが生き残る必要がある。私の場合、「黄昏の太宰府」に残れず、この地域から離れることにより、自分が「よそ者」になること

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 生態系 | 地域全体としての多角形のつながりがしっかりしているか？ |
| ☐ 集い | みんなが集まり、話す場や機会がつくられているか？ |
| ☐ 連結 | 地域全体をつなぐ組織や人材、拠点が機能しているか？ |
| ☐ 連関 | 生産だけでなく、加工・販売も連動し、効果的な連関が生まれているか？ |
| ☐ 女性 | 女性が活躍するポジションがあるか？ |
| ☐ 後見人 | 移住者や若者を支えるベテラン住民の存在はあるか？ |
| ☐ 法人 | 機動的に動く会社・事業組織が存在しているか？ |
| ☐ 楽しみ | 暮らしを豊かにするアートやサークルの要素があるか？ |
| ☐ 窓 | 閉鎖的でなく、外との交流の窓口があるか？ |
| ☐ 情報 | 地域内外への情報発信・共有の仕組みを持っているか？ |

を考えるのは何とも寂しい気持ちになる。とはいえ「よそ者」として、今後も出入りをする事により、「関係人口」としてカウントされるなら、この地域の経済的な豊かさに貢献できるのではないかと考える。地域の魅力をアピールすることにより、黄昏れの地域へ仲間を誘い込むのも悪くない。インターネットや SNS を活用して、魅力を発信し続けてもいい。私たちの学生時代は、FAX ですら魔法のツールに思われたが、今の大学生たちはインターネットの利用は、食事をする事と同じくらいあたり前の様子で、「スマホを持っていないと落ち着かない」という声すら聞こえる。

【地域から循環型の社会をつくる】

地域都市が生き残るための条件について、もう一步、踏み込んで考えたい。「元気な地域社会をつくる 10 か条」という試案がある（図 1）。その中では、生態系から情報に至る 10 つの条件が考えられていて、黄昏れていく地域が、消えることなく生き残るための具体的なポイントを明示している。これらの要素は決して十分であるとはいえないが、よそ者に頼るのではなく、地元から世界をつくり出すためのしくみが示され、循環型の社会の創出をめざしている。

藤山（2022）によれば、世界では「循環革命」が起きていて、地球環境保全の知見からは、エネルギー自給をめざす村落がドイツやオーストラリアは散見されるようになったそうである。日本では、内閣府により地方自治体の脱炭素戦略を促そうと、「地域脱炭素ロードマップ」を示され、2050 年に二酸化炭素の排出ゼロ（脱炭素）を達成しようとする全体像が示されている。脱炭素をめざし、炭素排出をゼロにすることは、私たちが達成すべき「待ったなし」のテーマである。

私が研究している持続的な森林利用と管理については、脱炭素に寄与するだけでなく、森林資源の利用循環を促すための「循環革命」をめざしている。木材の利用は、プラスチックなどの他の素材に取って変わり、国内では外材が輸入されると、国産材の価格はピーク時の 6～7 分の 1 にまで低下した。木材利用の循環を促し、国産材の利用を高めることで、地域の森林資源を循環させ、地域産業の活性化の契機になると考える。林野庁の林政審議会に委員として参加していた時の議論では、森がどうしたら経済的に豊かになる山になるか、国策を考えることに主眼が置かれていた。

ただ政策の実現には、政府によるトップダウンの動きだけでは難しく、地域住民（市民）によるボトムアップのアプローチが必要である。研究と教育にかかわる私たちが大学に留まらず、社会に訴え草の根的にムーブメントを起こすことはできないだろうかと考えてきた。

地域から循環型社会を内発的にめざす取り組みは、国内外の各地で始まっていて、「協働で動きたい」と思える魅力的な地域や組織がいくつもある。2 月末現在、春から千葉へ戻るか、福岡にとどまるのか、自分の居場所がまだ決まっていないが、関係を構築してきた地域とつながりを維持しつつ、森林をはじめとする自然資源が循環する仕組みを創り出す実践に取り組んでいこうと考えている。ボトムアップ・アプローチとは、内発的な組織をつくり出すことにある。小学校教員から大学教員まで務めた自分が得意とする教育の専門性を活かしつつ、今後も子どもたちや学生を育て、循環型社会を地域で起こせる内発的な組織づくりに努めたい。私でできることがあれば、世界中の何処へでもでかけるので、ぜひ声をかけてほしい。

【引用文献】

藤山浩（2022）地域を支える力と仕組み～地域社会の生態系をつくる～. 林業技術 962：2-6.

「野草の天ぷらとお茶つみの会」

4.23 予定(デイキャンプ)

※3年ぶりの開催予定でご案内します。現時点で許可の下りている範囲での案内になりますのでご承知おください。例年だと、野草を天ぷらに調理して食し、お茶を製茶して飲んでいますが今回は『飲食は無し』で開催します。また、大学内への入構について参加者名簿を事前に作成します、よって例年のような当日の自由参加は無しになります。

参加希望の方は4月8日までに事務局あてに必ずメールをください(参加者全員の氏名・住所・TEL・年齢を記載)。定員は50名としましたので先着順とさせていただきます。

恒例の「野草の天ぷらとお茶つみの会」のデイキャンプです。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、製茶します。野草の講師は樹木医の岩谷美苗さん、お茶づくりの講師は宮本農園の宮本透さんです。

日時：4月23日(日) 9:30~13:00

※弁当は持参せずに解散とします。

場所：東京学芸大学 環境教育研究センター(農場)



対象：どなたでもご参加ください♪

参加費：中学生以下：300円 高校生以上：500円

※帽子、飲み物をご持参をお願いします

※念のためマスクのご持参をお願いします。

○ お知らせと今後の予定

・「ちえのわ農学校」の参加者募集については、ちえのわ農学校のホームページをご参照ください。

→3/15が申し込み締め切り日となります!!

・こすげ冒険学校は、8/4~8/10の6泊7日、参加対象は小学校4年生~中学校3年生で予定しています。

→募集については5月を過ぎてから開始しますので今しばらくお待ちください。

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか?

略称 INCH(インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPO法人として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF環境学習中堅指導者養成講座(のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会費は年額(1~12月)です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円 学生会員：3,000円

賛助会員(個人・団体)：10,000円 家族会員：6,000円

準特別維持会員：50,000円 特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員：1口1,000円から

・成合基金(冒険探検基金)：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 〇〇八 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマス 149号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2023年3月10日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 0428-87-0165・090-3334-5328(事務局黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>